

地域に学び地域と歩む長生特別支援学校の魅力と課題

県立長生特別支援学校

1 本校の概要

本校は、平成27年の大網白里特別支援学校新設に伴う分離により、現在は小学部から高等部までの64名の児童生徒が学んでいます。一宮町は、九十九里浜の最南端に位置して、校舎のすぐそばには太平洋が広がっています。東京2020オリンピックのサーフィン競技会場となった釣ヶ崎海岸に近い、海まで400mという自然豊かなすばらしい環境にあり、風向きによっては波の音が聞こえる等、子供たちは自然豊かな環境の中で、毎日元気に学校生活を送っています。

現在は知的障害と肢体不自由の二つの障害種を教育部門とする特別支援学校ですが、学区は知的障害教育が一宮町、睦沢町、長生村、長柄町、長南町、肢体不自由教育が一宮町、睦沢町、長生村、長柄町、長南町、勝浦市、いすみ市、大多喜町、御宿町です。

本校には小学部、中学部、高等部があります。知的障害、肢体不自由、複数の障害を併せもった子供たちの学級や、健康上の理由で学校に登校できない子供たちに対しては訪問による教育を行っています。また、医療的ケアが必要な児童生徒のために看護師を配置しています。

通学は、自力通学や保護者による送迎のほかに、スクールバスとワゴン車で送迎を行っています。

養護学校時代から「潮風に向かって育て長生っ子」のスローガンのもと、海の恵みを題材にした教育活動が盛んに行われてきました。令和元年度の1000か所ミニ集会は、「東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて地域で連携できること」のテーマで開催しました。中学部と高等部の生徒も参加して、本校のオリパラ教育についての報告を行いました。話し合いでは、一宮町釣ヶ崎海岸で実施されるサーフィン競技を題材に、地域が一体となって取り組む「おもてなし企画」について盛り上がりました。釣ヶ崎海岸が東京2020オリンピックのサーフィン競技会場に決まっ

てからは、オリパラ教育の一環として中学部と高等部の生徒が海岸清掃を行ってきました。新型コロナウイルス感染症によって令和3年に延期されたオリンピックとパラリンピック

では、一宮町オリンピック推進課との連携で、オリンピック聖火リレーのロゼットメダルを製作し、パラリンピック一宮町採火式に参加しました。

一方で、海から400m、海拔5m、近所には高台がないという立地環境は、現在地への移転以来、津波からの避難課題を内包しています。平成23年3月11日に発生した、東日本大震災による津波被災の衝撃により、改めて防災については喫緊の課題であることを確認しました。東日本大震災で本校は直接的な被害はありませんでした。しかし、その時に校内で面談をしていた



令和4年度卒業生 永野茂信さん作
「長生特別支援学校」



釣ヶ崎海岸清掃活動

生徒、保護者は職員と一緒に本校2階に避難したり、その年度の卒業式は体育館の耐震安全のために卒業学年だけで行ったりと大きな影響を受けました。

以降、避難計画の抜本的な見直しと、海の恵みに頼ってきた教育課程の見直しを図ってきました。

2 「三本柱」の成果

本校の魅力である「特色ある教育活動」の三本柱は、「長養太鼓による情操教育」、「パラスポーツ教育」、「防災教育」です。どれも地域の御協力に支えられてきました。この三本柱について報告します。

(1) 長養太鼓による情操教育

長生地区推進大会に向けて

「長養太鼓」は、創立25周年の平成13年に結成された和太鼓のグループです。結成当時はオーディションでメンバーを募っていました。結成に先立ち、初代担当職員は一宮町東浪見の和太鼓サークルに出向いて指導を仰ぎ、猛特訓したこともあったそうです。現在は、全校から希望者を募っています。令和5年度は、小学部2名、中学部3名、高等部5名の計10名で編成されています。現在も日々、「しおかぜ祭（文化祭）」「長生地区特別支援教育推進大会」「全校集会」に向けてお昼休みに音楽室に集まり日々練習しています。曲は本校に代々伝わる「うみなり」

「長養祭り太鼓」という本校オリジナルの曲を毎年演奏しています。全校集会、文化祭等の校内行事での発表だけでなく、地域での発表も楽しみに取り組んでいます。学年の違う児童生徒が集っているので、高等部の生徒が中学部の生徒を教え、中学部の生徒が小学部の生徒を教える等良い伝統となっています。6月から練習が始まり、最初うまくリズムが打てなかった児童生徒が練習を積み重ねて様々なリズムを覚え、「しおかぜ祭（文化祭）」までに2曲を暗譜して披露できるまでになっています。できなかつたリズムがたたけたときに「うまく

できた」と大喜びしたり、間違えたときには「もう一度練習したい」と声をあげたりする児童生徒が多く、昼休みの練習はとても意欲的な雰囲気になっています。和太鼓は、音楽の授業でも各学部とも取り入れています。純粹に太鼓のリズムと音色を楽しむ児童から、自分からリーダーを希望し担当する生徒もいます。地域の小学校との交流でも長養太鼓を披露しています。みんな緊張しながらもそれぞれの発表を楽しみにしています。児童生徒全員がそれぞれの思いで和太鼓に親しみ、日々情操教育を育んでいます。



昼休みの練習風景

(2) パラスポーツ教育

NPO法人一宮町スポーツ協会との連携

地域のNPO法人一宮町スポーツ協会と連携して地域のパラスポーツの推進に取り組んでいます。ボッチャを中心に地域の誰でも気軽に障害者スポーツを楽しめるための持続可能なイベント企画を地域の行政機関、各種学校、民間ボランティア、総合型地域スポーツクラブ等と連携しています。ボッチャ用具の貸し出しを行っています。



一宮町 GSS センターでのボッチャ大会の様子

すが、ルール等も浸透していけるようにボッチャの試合の審判等も合わせて行っています。審判として参加したボッチャ大会では、初めて活動する人が多いのですが、「楽しかった」「今度は周りのみんなにも伝えていきたい」といった感想が聞かれています。

今後も拠点校としてのパラスポーツの推進に地域と連携していければと考えています。令和5年度は、県内1000か所ミニ集会でパラアスリートを招聘し、地域と一緒に取り組み共生社会に向けて児童生徒が卒業後に地域へとスムーズに移行できるようにと考えています。

令和5年度の日程（予定）

(ア) NPO法人一宮町スポーツ協会主催スポーツ体験

「エンジョイスポーツの日」での「ボッチャ」

・日時：2023年5月27日（土） 場所：一宮町GSSセンター

(イ) 郡民大会での「ボッチャ」

・日時：2023年7月30日（土） 場所：一宮町GSSセンター

(ウ) 長生郡市一般募集のボッチャ競技大会および生涯スポーツ大会

・日時：2023年11月18日（土） 場所：一宮町GSSセンター

(エ) 県内1000か所ミニ集会でのパラアスリートを招聘したボッチャの取組

・日時：2023年12月6日（水） 場所：本校体育館

(3) 防災教育

①本校の防災教育

平成24～25年度、県教育委員会指定の「命の大切さを考える防災教育公開事業」に取り組みました。東日本大震災の教訓に学び、避難計画を抜本的に改めました。近くに高台がない本校は、遠方の高台に避難するために、スクールバスや職員の自家用車に分乗して避難する計画を作成しました。海拔50mの一宮カントリー倶楽部の協力を得て、スクールバスでの避難訓練を重ねました。また、遠方の高台を目指す計画だけでなく、より短時間で最寄り一番高い場所を目指す避難計画も模索しました。本校で一番高い場所は海拔8.6mの2階でした。

平成25年3月に、海拔11.2mの本校屋上に避難するための非常用外階段が設置されて以降は、スクールバスや職員の自家用車に分乗して避難する校外避難と屋上への避難の二本立てで訓練を重ねました。「命の大切さを考える防災教育公開事業」を契機に、それまで実践してきた防災教育を整理して教育課程の改善を行いました。小学部は身の安全を守る一次避難の動きを「ぼうさいダック」ゲームとリトミックで学びました。中学部は、職業・家庭で防災リュックを作り、総合的な学習の時間で地震や津波について調べました。調べたことをカルタにまとめ、繰り返し楽しみながら避難の基本を覚えさせました。高等部は校内の非常口や消火器の位置を配置図にまとめて掲示しました。避難訓練とこれらの学習の取組



スクールバスによる校外への避難訓練



職員の自家用車による
校外への避難訓練

は、平成24年度ぼうさい甲子園で「津波ぼうさい賞」を受賞しました。

現在は、一斉避難により近隣の施設に避難するようになっています。

②形骸化に対する対策

しかし、画期的だったはずの校外への車両避難や屋上への避難は、いつしか訓練のための訓練になっていきました。そして、各学部の関心がオリパラ教育へと向くにつれて、防災教育は次第に前年度の踏襲となりました。

平成30年度、もっと身近な題材で防災に迫ってみようと、小学部4年生の二人組が、天気と温度から熱中症で気を付けることや自分の心の天気についても自覚して、雨(泣きたいとき)や雷(怒りが大爆発しそうなとき)の場合の対処方法等を学び始めました。学習内容は、簡単な歌詞にして歌いました。繰り返し歌うことで学習内容が定着しました。歌が好きな二人からは、「もっと学習したい」という学びに向かう姿勢が顕著に表れ、防災訓練の事前事後学習としても活用される等、マンネリ化していた防災教育のカンフル剤となりました。楽しく歌って学ぶその取組は「ラップ♪防災」(注1)と名付けられました。子供の学習の様子を紹介して防災についての情報発信を考えた保護者と学校の思いが重なり、「YouTube 長生特別支援学校チャンネル」を開設して動画投稿を行いました。令和5年6月現在で52作品を配信しています。反響は大きく、あっという間に二人は校内でスターになりました。しかし、本人たちは変わらぬ自然体で学習を続けました。二人のユニット名「なちゅりー」が「ありのまま」「自然体」「あたりまえ」の意味から由来しているそのままを表現していました。現在は、防災だけでなく、「みんなのICT」「僕らのキャリア教育」等防災だけでなく、学校の課題等を児童生徒が反復して学習しやすいように、二人だけでなく学校全体の児童生徒を巻き込んで進化しています。



ぼうさい賞「優秀賞」受賞の校内掲示

二人の動画は、他のクラスの授業導入で活用されるようになり、本校の防災教育は、再び活気付きました。高等部は、校外の避難場所について実地踏査を行い本当に避難できる場所なのかを体験する学習も始めました。再燃した防災教育の取組は、ぼうさい甲子園において、平成30年度と令和元年度に再び「津波ぼうさい賞」を受賞し「withコロナ」がテーマに加わった令和2年度は「優秀賞」を受賞しました。

令和3年度の「ラップ♪防災」は、二人組ユニットなちゅりーの学習発表だけでなく、新任教員の研修発表、全校児童生徒の学習発表と、みんなの「ラップ♪防災」化を図っています。そして、避難訓練の反省は、これまでの職員だけの反省ではなく児童生徒にもアンケート形式で振り返りの時間を設定して取り組んでいます。

③県内1000か所ミニ集会の助言をもとに

令和2年度、学校を核とした県内1000か所ミニ集会で、「地域で取り組む防災活動」を主題に、屋上避難の課題や車両避難の課題について津波避難計画概要について協議しました。6名のパネリストから、「長生特別支援学校の児童生徒の命を守るため」について話し合い、まずは

「自分たちで被災前になにができるか」を考えました。千葉科学大学危機管理学部藤本和夫先生からは「障害者の防災を考える」というテーマで御講話をいただき、現実的な津波避難について再考する機会となりました。

令和3年度の学校を核とした県内1000か所ミニ集会では、主題を「地域で取り組む防災活動」とし、協議の柱を2つ立てました。柱である「地域の具体的な避難場所と方法」「地域の特別支援学校としての具体的な移転先」について、保護者と放課後等デイサービスの視点からのA班、本校の防災安全計画と学園や地域の実情の視点からをB班、教育機関と行政機関の連携の視点からをC班とし、班別協議後、意見を交換しました。そこでは、「徒歩で避難できる分散避難」「地域の公的機関や民間施設で連携を取り、支援しあえるとよい」「移動の弱みがある車椅子の児童生徒は本校2階以上に避難」の御意見をいただきました。

令和4年度の「地震・津波発生時の対応マニュアル」は、スクールバスや職員の自家用車に介乗して避難から、本校2階会議室避難グループ、船橋市立一宮少年自然の家避難グループ、リブコースト一宮シニアホームグループの分散避難計画でスタートしました。

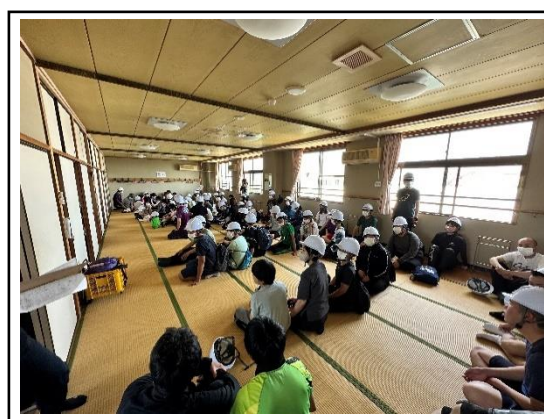
校内での取り組みでは、小学部・中学部合同での大津波を想定した徒歩による船橋市立一宮少年自然の家への避難訓練を実施しました。段階的な少人数での避難訓練でしたが、本校の屋上よりも高い3階の大広間は全校児童生徒も収容可能な広さであることが確認できました。さらに2階の体育館でも9mの海拔があり、とにかく高さでも安心できる避難所であることも確認できました。4月から9月までの避難訓練から地震・津波発生時の対応マニュアルを3回見直し改善を行いました。

また、何よりも一番海拔の低い学校に残るグループの存在があることが課題でした。そこで学校運営協議会からの意見で、船橋市立一宮少年自然の家の所長から船橋市等に確認していただき全校による避難の受け入れを承認していただきました。2月には、全校での津波からの校外避難訓練を実施し、校外避難開始から船橋市立少年自然の家3階の避難完了まで20分という検証ができ、より現実的な避難マニュアルが作成できました。

今後は、なるべく見やすく分かりやすいマニュアルを目指すことと、いつ災害が発生してもマニュアルを基本に職員、児童生徒がケースごとの事態に対して、主体的にイメージして行動できるマイタイムラインの作成を防災教育の内容に取り入れて、組織的に成長していきたいと考えています。



船橋市立一宮少年自然の家への避難訓練①



船橋市立一宮少年自然の家への避難訓練②

4 学校運営協議会における地域連携

令和4年度に学校運営協議会がスタートし、これまでに実施してきた活動とこれから取り組んでいきたい活動等について協議をしてきました。

本校作業製品の販売場所の開拓や納品場所の開拓、読書活動等についてたくさんの助言をいただきました。地域のNPO法人一宮町スポーツ協会と連携して地域のパラスポーツ（主に「ボッチャ」）に取り組みながら、協議会の中で御意見をいただき、本校職員がボッチャの審判として参加しています。地域の高校生にルールを教えたり、地域の方が楽しめるようにゲームを進行したりする等連携してパラスポーツが盛り上がるように取り組んでいます。今後、学校で行うボッチャの取組にNPOの職員が参加したり、放課後等デイサービスの地域の方と一緒に取り組んだりしてより地域と連携して行っていく予定です。協議会の中で、「これから共生社会を目指す中でより垣根を低くするためにはどうするか」等、協議し助言をいただきながら参考にして取り組んでいきたいと思えます。

5 学校運営協議会における地域防災

令和4年度の運営協議会では、分散避難での検証結果と課題を報告しました。避難場所が数か所に分かれることで、それぞれのグループで支援する介助の人手が不足になること、安否確認の情報共有が難しいこと、それらによる心理的不安が高まり、希望的な避難にならず、絶望的な避難に陥ることが懸念されることが挙げられました。それを受けて、運営協議会では、船橋市立一宮少年自然の家と連携し、緊急避難に伴う避難場所として、改めて令和5年1月には協定を結び、試行的な分散避難から全校一斉避難という方向に落ち着きました。



令和4年度 学校運営委員会

また、地域連携の継続発展については、船橋市立一宮少年自然の家への避難マニュアルについては担当が代わっても情報交換を丁寧に引継ぎできるようにと話し合っています。平成23年3月11日に発生した、東日本大震災による津波被災の教訓から、本校の移転先としても一宮GSセンターの裏山に共有地があるとのこと等、具体的な御意見をいただいています。今後も引き続き県教育委員会とも協議を重ねながら進めていきたいと思えます。

令和5年度の第2回学校運営協議会では、直前に起きた台風での防災体制について協議しました。それぞれの学校等の防災体制について情報共有を行う中で、本校が一宮町にある学校の一員として、一宮町教育委員会から町立の学校の休校等の情報や一宮町の避難情報等を直接連絡いただけるようになりました。子供たちのより安心安全な学校づくりに向けた取り組みになりました。

6 その他

(1) 開かれた教育課程の取り組み

将来教員志望の高校生が本校に来校し、基本的な車いすの介助や学習指導等を通して特別支援教育について理解を深めています。研修を受けた高校生からは、「一人一人の



大多喜高校生の研修風景

生徒への対応が工夫されている」「教師と子供たちの距離が近い」といった感想がありました。

(2) 持続可能なPTA活動、同窓会

PTA活動や同窓会等の活動を再確認しています。新型コロナウイルスによる行事の中止や教職員の働き方改革、これまで職員が企画運営してきたバス旅行等の行事を見直しています。同窓会の皆さんに地域でのイベントを紹介する等、本校のホームページに情報を掲載してより地域と一緒に進めていけるようにしています。地域に根差した学校を目指すにあたって新成人を祝う会等（二十歳を祝う会）も無理のない範囲で進めています。

今後も地域のイベントの紹介、長生地区での本校生徒や卒業生の参加可能なイベントの紹介をホームページで行う等情報発信を行っていきます。

(3) 教育相談

(ア) 学校公開

・地域の教育・福祉関係者、地域の方々に本校児童生徒の日常の学習活動を参観していただき、本校の教育活動について理解や協力が得られるように進めています。

前期：5月22日～ 6月2日 : 29団体(56名)参加

後期：9月25日～10月6日 : 25団体(50名)参加

(イ) 研修会の実施

・地域の幼小中高の教職員等を対象に特別支援教育に関する出前授業や研修の協力を行っています。

○長柄こども園、つくも幼児教室等での出前教室

○夏季研修：「特別な支援を必要とする子供への関わり方に関する」職員向けの研修等の実施 6回

(ウ) 地域相談会の実施

・身体の動きや発達・発音等に心配を抱えている幼児児童生徒、保護者、教員及び関係者への身体面生活面等の相談支援。 毎月1回



夏季研修会

(4) 居住地校交流

本校児童生徒がその生活の基盤である地域の学校の児童生徒と交流を通して、児童生徒の活動が地域社会に広がり、地域社会で自立できる力を育むとともに、地域との関係をより深められるように行っています。

(小学校)

・一宮町立一宮小学校(9/20・11/22)、長生村立高根小学校(9/26・10/27)、長生村立八積小(11/13、28・12/5)、長柄町立長柄小学校(9/13・11/10)

(中学校)

・一宮町立一宮中学校(7/11)
長南町立長南中学校(7/14)

(5) 小中学校との交流及び共同学習

本校の児童生徒も他の学校の児童生徒と同じ社会に生きる人間としてお互いを正しく理解し、ともに助け合い支え合っていくことの大切さを学び、児童生徒の経験を広げ社会性を養い豊かな人間性を育てています。



東浪見小学校との交流

- ・一宮町立東浪見小学校・・・9/12、15 本校小学部と交流
- ・一宮町立一宮中学校・・・しおかぜ祭（文化祭）での交流
- ・長生村立長生中学校・・・高等部園芸班との交流

（6）作業製品の納品・販売会

（中学部）

- ・花づくり班・・・船橋市立一宮少年自然の家へ納品
- ・手工芸班・・・サマーフェア（6月）、ウインターフェア（12月）販売会

（高等部）

- ・園芸班・・・長生中学校（7月、12月）、茂原カントリー納品、夷隅市役所納品 等
- ・焼き物班・・・シーサイドオーツカ納品、ちゃらこ屋納品 等
- ・レザークラフト班・・・ちゃらこ屋納品、ショッピングモール「アスモ」販売会 等

7 広報・報道状況

平成24年度：津波ぼうさい賞（ぼうさい甲子園）

平成30年度：津波ぼうさい賞（ぼうさい甲子園）

令和元年度：津波ぼうさい賞（ぼうさい甲子園）

令和2年度：優秀賞（ぼうさい甲子園）

令和2年：ぼうさい賞受賞（毎日新聞）

令和5年：ラップで防災意識を高める（日本教育新聞）



「日本教育新聞」6/26 2023年

8 今後の方向性

今後も地域に学び、地域と歩む学校づくりを大切にしていけます。そのためには、①地域と学校のWIN&WIN

の関係を築くこと。②持続可能な取り組みにすること。が

重要と考えています。その上で、「地域の活性化」「地域の資源の活用」のために本校ができることを実施していきます。本校2年目の学校運営協議会を中心により発展させて、広く地域の声を聞き地域のニーズに見合った地域貢献を目指していきたいと考えています。

令和5年度の学校運営協議会の「地域防災」では、本校の防災体制について、「本校が一宮町にある学校の一員として地域の小中学校と同じように休校等の情報を共有したほうが良い」と力強い言葉をいただきました。また、1000か所ミニ集会では、「地域連携」として、ポッチャ競技のパラスリートと一緒に地域の方とポッチャを行うことで、「今後もこのようなイベントに参加したい」「児童生徒と一緒に楽しむことができ良かった」とうれしい言葉をいただきました。今後も、本校児童生徒だけでなく、保護者、職員、地域の住民、放課後等デイサービス、小中・高等学校の皆様と一緒に地域連携ネットワークを共有して歩んでいければと考えています。

今後も地域と学校のWIN&WINの関係を目指して、共通課題である共生社会に向けて取り組んでいきます。「本校の児童生徒を含む地域の子供たちが共に生きていくために、学校では何ができて、地域は何ができて、何をすべきか」について、本校がこれまで地域との関係で培ってきたものを生かしつつ、地域の安心安全のための協議ができればと考えています。地域連携のために、地域行政機関との連携強化に加えて、地域の学校間連携にも取り組んでいきます。各校の防災安全計画等の課題を共有しつつ、交流及び共同学習等での連携を生かしつつ気軽に相談し合

える関係の構築を目指します。これからも学校運営協議会を中心にホームページで情報を共有し、地域に貢献できるのではないかと考えています。

本校の教育目標である「夢に向かって輝け！笑顔！ みんなで心豊かにたくましく」の具現化のためにも、これまで以上に地域から学べる学校を目指していきます。

「ラップ♪防災一覧（全56作品中26作品を掲載） P4注1参照」



ラップ♪防災 一覧 ①

<p>№1 version.1 (天気と温度) 2018/11/26</p> <p>1:11</p>	<p>№2 version.2 (心の勉強) 2018/11/26</p> <p>おん 1:13</p>
<p>№3 version.3 (遊びの時間) 2018/12/06</p> <p>1:15</p>	<p>№4 version.4 (遊びのプロミス) 2018/12/18</p> <p>まも 1:04</p>
<p>№5 version.5 (防災安全) 2018/12/18</p> <p>1:08</p>	<p>№6 version.6 (学校安全) 2018/12/18</p> <p>とびださない 1:07</p>
<p>№7 version.1~6 通し+まとめ 2018/12/25</p> <p>こうつう 9:36</p>	<p>№8 序章 2019/01/15</p> <p>1:21</p>
<p>№9 version.1 【なちゅりー】 2019/01/26</p> <p>あめ こうすい どし 1:12</p>	<p>№10 version.2 【なちゅりー】 2019/02/05</p> <p>わたしの ここ 1:15</p>
<p>№11 version.3 【なちゅりー】 2019/02/12</p> <p>のどが がわい 1:19</p>	<p>№12 T S U N A M I 2019/03/14</p> <p>1:19</p>
<p>№13 version.4 【なちゅりー】 2019/03/28</p> <p>ぶつかっちゃっ 1:13</p>	<p>№14 version.5 【なちゅりー】 2019/03/28</p> <p>1:08</p>



<p>No.42 1学期の避難訓練 2021/08/01</p>  	<p>No.43 心肺蘇生法♥命をつなげ 2021/08/31</p>  
<p>No.44 僕たちの防災学習 レッスン1 災害の種類 2021/11/02</p>  	<p>No.45 僕たちの防災学習 レッスン2 防災リュックを確認しよう 2021/11/10</p>  
<p>No.46 僕たちの防災学習 レッスン3 非常用発電機 2021/11/29</p>  	<p>No.47 特報「シン・ラップ♪防災」 2022/06/21</p>  
<p>No.48 夏休みの過ごし方REMAKE 2022/07/12</p>  	<p>No.49 シン・避難訓練 2022/11/18</p>  
<p>No.50 避難所で非常食 2022/12/25</p>  	<p>No.51 避難訓練 2023 冬 2023/03/24</p>  
<p>No.52 防災さんぽ 2023 学校探検 2023/05/23</p>  	<p>No.53 みんなのICT ラップ♪防災・スピンオフ 2023/07/11</p>  